

二葉

東京支部だより

令和2年9月1日発行 第25号

題字:今井綾子(高女28回)



支部長挨拶

かけがえのない繋がり

東京支部長 渋谷 和海

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じ上げます。

今年は二葉高等学校同窓会東京支部創立70周年という区切りの年でありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によつて定期総会は中止となりました。この決定に際しては、学年幹事はじめ、諸先輩方から多くのご意見ご助言を賜り、心から御礼申し上げます。最終的に一部の会員の皆様に総会資料を郵送することとし、総会報告とさせていただきますました。何卒ご了承の程お願い申し上げます。

4月5月に予定していた新旧役員の引き継ぎも外出自粛要請により開催できず、今年度の活動を開始できないまま日にちが過ぎていきました。その後、緊急事態宣言の解除により6月13日ようやく第1回役員会を開催、新旧役員が顔合わせをし、遅いスタートとなりました。

最初の活動である「支部だより」の作成は、幸い昨年度から準備を進めておりました。今年は出版に携わる同窓生のお力を拝借し、デザインやレイア

ウトを決定、次年度に向けて作成マニュアルも作って頂くことになりました。スキルを持つ若い方の協力を得て、役員の負担を軽減することができました。

二葉の良き伝統を受け継ぎながら、変わりゆく時代に即して柔軟な活動を行っていくことが同窓会の継続、発展に不可欠であると感じます。

支部だよりを通じて同窓生の活躍を知り、恩師のご寄稿に、そして懐かしい友人の名前に二葉の時が思い起こされます。定期総会では活躍する同窓生や様々な分野の講師をお呼びして講演会を開催しています。また同窓生と親睦を深める貴重な機会を得ることができるよう。

東京支部の活動にご興味がありましたら、是非、総会に足をお運びください。また懐かしき同期の友と共に、同窓会の活動に参加してみませんか。きっと得るものがあると思います。

今年はコロナ騒動で大変な経験を経験しましたが、人との真の繋がりを意識した年でありました。



すこやか像

皆様、どうかご自愛のうえ、ご活躍いただきますようお願い申し上げます。

定期総会中止の経過報告

令和元年度支部長

鈴木 泉

新型コロナウイルスの感染防止のための自粛要請を受け、令和2年度の同窓会東京支部総会の開催中止を余儀なくされました。その経過について、会員の皆様にご報告いたします。

1月18日 第5回役員会にて総会資料の作成と準備が提案され、総会案内ハガキを3月22日に

投函し、4月22日に出席の締め切りを設けることを決定した。

3月14日 第6回役員会にて、総会案内の往復ハガキがすでに完成し22日に発送見込みであることが確認されたが、新型コロナウイルスの拡大を受け、開催の可否を討議。当時まだそこまでの自粛要請が出ていなかったことから、ひとまず開催の予定は変えず、しかし事態が変わることも踏まえ、22日から28日に投函を遅らせ事態の変更に備えることを決定した。

3月25日 感染が拡大し、会食を伴う会議などの自粛が求められるようになり、再度正副支部長で

協議。会則、内規に総会が開けない場合の規定等がなく、総会の議決の会員の定足数なども決まっていない状況で、会食、講演、傘寿の会を中止し、午前中議事だけの総会を開催できないかと模索。会食と午後の会場をキャンセル。

3月27日 歴代支部長の方々に総会についての意見を伺ったが、多くの方が現在の状況では中止もやむなしとのご意見だった。また、人が多く集まることへの自粛要請が強まる中、総会の開催中止を決断。すでに出来上がっている往復ハガキを廃棄、改めて総会中止のハガキを4月10日までに投函することに決定。事業計画や予算案については、役員一任ということで執行することとした。

4月8日「総会中止のお知らせ」を発送。その前日に緊急事態宣言が出された。新旧役員での引継ぎ役員会も中止とした。



以上が総会開催中止の経過です。できれば書面議決がしたかったのですが、規定もなく、会員すべてに総会資料を届けることは経費的に難しいと判断しました。今後このような事態に即した内規の見直しが求められます。幹事会や役員会で課題として協議いただけたらと思います。

なお、総会資料は総会中止を受け一部修正して作成し、学年幹事、歴代正副支部長、過去2年間の総会出席者に送付いたしました。

母校だより

書道展やイベントが次々中止になり、不完全燃焼の状態だった書道部員たち。形を変えた『

タバサイ』で文化部発表の機会を得て、特別な想いを持って臨みました。3年生7人が今の状況下での自分達の気持ちや決意を文章に。胸を打たれました。パフォーマンスの最後に「僕らは、今を生きて！」と力強く読み上げると、職員だけでなく、見ていた生徒の中にも涙する子が…。二葉の若者たちの逞しさや潔さに感心いたしました。

(諏訪二葉高校 芸術科書道担当 荻原 梓)



支部だよりがまもなく印刷という時、1枚の写真が送られてきました。撮影者を辿ると、書道を指導されている荻原梓先生。東京支部役員一同、直ちに掲載を決定。明けない夜はない、そんなエールを後輩たちに送ります。頑張れ！二葉生。



傘寿の皆様からのお手紙

傘寿の高校 11 回生の皆様から温かいお手紙をいただきましたので、一部割愛の上ご紹介いたします。

守屋静子 様 (11 回生代表幹事)

この度は傘寿の記念のお品お届け下さいまして有難う存じます。早速寝室に飾りまして信州の香りと皆様方の暖かい心遣いに浸って居ます。支部総会も例に漏れず中止せざるを得ない事態にて役員の方々、さぞお心を痛められたことと存じます。多少ですが鈴木支部長宛(現金書留)お送り致しましたので、ご笑納下さい。

田中睦子 様

憧れの二葉高校に入って、素晴らしい先生や友達に出会えたこと、日が暮れるまでテニスコートを走り回ったことなど懐かしく思い出されます。その二葉生も最早 80 歳、正に「光陰矢の如し」。コロナの影響下、皆様にお会い出来なかったのはとても残念です。

山崎秀子 様

コロナ禍の大変な時に役員の皆様から心のこもりました手作りの記念品をありがとうございました。二葉での想い出深い三年間は人生の基礎を教育していただいたように思います。今も二葉の友人と年を重ねるごとに心豊かに交流できることを感謝しています。

木原良子 様

本日はふる里を身近に感じる心のこもった記念品を頂き有難うございました。百年に一度と云われる異常な出来事に遭遇し平和で幸せな日常のありがたさを痛感しております。

小松八保子 様

80 歳はやたらと忘れることばかりでうんざりの毎日ですが、この香りに改めて二葉の生活がいかに豊かな日々であり沢山の先輩後輩との交流が想い出されます。不安ばかりのこの日々ですがお便りを頂き楽しかったあの日々を思い出させていただきました。

藤森はつる 様

手作りの傘寿のお祝いのワックスサシエ有難うございました。役員の皆様のお暖かいお気持ち本当に嬉しく戴きます。

岡田幸子 様

お世話になりました。残りの人生後悔なきよう送りしたいと思います。

神山八洲江 様

爽やかな香り溢れるワックスサシエ、コロナ禍の空気一変幸せホルモン一杯の日々となりました。見事なドライフラワーとリボンの配色。「蓼科の」のコメントに山の魂力を知った蓼科登山や苦しかった蓼の海往復の強歩等、二葉生の頃、懐かしく思い出しました。

岩崎敬子 様

傘寿のお祝いありがとうございました。役員の皆様のお心こもったワックスサシエ早速飾らせていただきました。東京支部が活発にご活動されますようお願い致して居ります。

武田志め子 様

コロナ禍で気が滅入っている時に郷里蓼科のドライフラワーを使用したワックスサシエがどんなに私の気持ちを清々しくしてくれたことでしょうか。本当に嬉しいプレゼントでした。いつの間にか傘寿のお祝をいただく年齢になっていました。

山路早苗 様

本支部長時代、二葉でお世話になった先生方、平林良喜先生、諏訪坂先生、鮎沢先生が上京され、お目にかかれた事。10 回生の支部長河西八重子さんのお計らいで野村とも子先生の歌の指導を実現させていただいた事・・・本当に感謝致して居ります。

北沢妙子 様

至らぬ支部長ではありましたが、同期の仲間や役員の皆さんに支えて頂き、何とか次期へバトンを渡す事ができました。その時の感謝の気持ちと安堵感忘れず居る事ができません。昨年原因不明の病を発症し、現在闘病中です。そんな私にまで傘寿祝をお贈り頂き、元気を頂く事ができました。

清水美智 様

ほのかな甘い香りと蓼科のドライフラワーに心癒されています。文芸部に所属し「幽径」という文集を作ったことが蘇りました。白い校舎、庭に建つすやかかの像、そして潤沢な自然の恵みの中で三年間過ごしたことが懐かしく思い出されます。

関口富美 様

手作りの素敵なサシエを有難うございました。気の効いた可愛らしいプレゼントに感激致しました。壁にかけて香りを楽しんでいます。

林よしえ 様

思いもかけない傘寿祝いをいただき心から感謝申し上げます。素敵なカードと可愛らしい芳香のワックスサシエ。役員の皆様のお手製とのこと、今年はコロナ騒ぎの中、蓼科のドライフラワーのご準備から発送までどんなに大変な思いをなされたことでしょうか。

濱洋子 様

傘寿祝いのワックスサシエをありがとうございました。「揺籃」の制作過程を、ご縁があって拝見できたことなど楽しい思い出です。



「可能性の追求」を胸に

高校24回生 新井泰子

まなび舎での日々からはや半世紀。担任千田俊明先生のお話を会報「ふたば」で拝読し、思い出の数々が改めて甦ってまいりました。

私と「平曲」(語りによる『平家物語』)との出会いは二十歳の時でした。近世邦楽とは全く趣の異なる音楽に驚嘆し、時を置かず師の門を叩きました。そこでまず、私を魅了した「いにしえ」の語り物音楽、且つ私達が愛読している『平家物語』の濫觴からお話したいと思います。

こんにち私達が鑑賞している伝統芸能の多くは、中国から伝来した仏教の典礼を源としています。奈良時代天平勝宝四年(752)の東大寺大仏開眼法要には大陸から来日した芸術家による多彩な芸能が披露され、東大寺の前庭は、千人の僧侶が唱える中国語による声明(仏様を讃えるコーラス)の響きに包まれました。その後わが国でも、日本語のお話に旋律を付して唱える「講式」と呼ばれる物語音楽が、法要のために盛んに作られるようになりしました。『平家物語』は鎌倉時代

の始めに比叡山延暦寺を中心とした高僧と貴族の方々によって作られ、雅楽の琵琶を爪弾きながら「講式」の音楽体系と理論で節付けがなされました。こうして誕生した『平家物語』即ち「平曲」はその後のほとんどの伝統芸能(能、歌舞伎、近世邦楽、話芸など)の母体となりました。因に、世阿弥は平家物語のお話と音楽をもとに、30曲以上の能を作りました。

平曲は本来幕府による盲人救済制度の中で、式楽として伝承されてきました。それゆえ私が稽古を始めた昭和49年(1974)当時、晴眼者の語りは好事家の平曲と呼ばれていました。しかし、素人芸ではない師の語りと平曲の高度で緻密な音楽構造に着目した私は、息子達が学齢期になったのを機に大学院に進み、晴眼者の平曲が幕末の弘前藩のお殿様自らの「相伝」という稀有の、しかし正統な伝承であるという事を確認しました。修士論文は「津軽藩における平曲の摂取と伝承」です。

弘前藩は寛政の改革の折に藩の文

化の向上のために雅楽と平曲を取り入れ、11代藩主順承公は参勤交代の折々に江戸藩邸で麻岡検校に師事し、安政五年(1858)に相伝(免許皆伝)を受けました。江戸幕府が終わると同時に平曲は保護を断ち切られましたが、旧藩主津軽承昭公は家臣楠美家に平曲の譜本や琵琶を下賜し、末長く平曲を相伝する事を命じたのです。私は平成9年(1997)に、楠美家の御子孫館山宣昭先生より相伝を受けております。

平家物語に描かれる地震、大火、飢饉や、戦乱で命を落とした雑兵達、西海の藻屑となった名もない人々の不条理な死は、単に過去の出来事ではありません。私達も今、コロナウィルスの恐怖を突き付けられています。平家物語の継承は歴史を伝える事でもあります。八百年間、人から人へと一度も跡絶えずに語り継がれてきた伝承を何としてでも次代に伝えたいと願い、私は今、平曲の普及と後進の育成に邁進しております。

同期会報告

27回生

同期生の集まり

高校27回生 岡田光子

同期会とまではいかなくても連絡が取れる友人達で、令和元年12月に蓼科高原のホテルに1泊してきました。東京方面から5名、長野県在住者4名が集まりました。60歳を超えても仕事で忙しい人、ちよつと余裕ができた人など様々ですが、クリスマス飾りつけが綺麗なホテルのロビーでのおしゃべり、食べて飲み、楽しい、話し、食べて飲み、楽しい時間を過ごしてきました。

東京支部では初めて関東で同期会、クラス会を開く場合、または5年以上間をおいて開く場合に、必要な経費(往復ハガキ×人数分)を支援します。詳細は、東京支部までお問い合わせください。





「続・青春」の時代

社会科 征矢 鑑

昭和47年（教員三年目）の春、二葉高校に着任。27回生、29回生の担任時代を経て54年3月まで在職。通算7年間を諏訪の地で過ごしました。二葉は私にとって至福の「続・青春」の時代であり、その後の教員生活の原点ともいえる修練の日々でもありました。

成熟していた生徒の自治感覚

生徒会顧問の末席に名を連ねた時のこと。連日、弁当を抱えて執行部員が生徒会室に集まり、行事の打合せが行われていました。時には顧問もオプザーバーとして出席。賑やかな生徒会室でしたが、生徒会長の凛とした「ねえ、皆さん…」の声で直面する課題に活発な議論が始まり、会長のリーダーシップのもと意見が整理集約されていく。素晴らしい執行委員会に感心したものでした。当時は7月開催の「二葉祭」後夜祭の終了時刻19時が職員会の意向とすれ違った時期でもあり、顧問は両者の板挟みになる事もありました。執行部は何度か体育館で「談論会」を開催。そこには数百人の先輩たちを前に堂々と自論を述べる

一年生もあり、またそれを冷静に聞く上級生の姿勢がありました。生徒達の、あの自治的集会は「諏訪特有の風土」の中で培われた所産であろうと今でも深く記憶に刻まれております。

クラブ活動の思い出

・梨久保遺跡の発掘（47年）

50名という大所帯の考古クラブ顧問。「何としても単独発掘を」と25回生が連日社研に押かけました。発掘には難しい要件があり、考古学の第一人者・宮坂光昭氏や岡谷蚕糸博物館の学会員の方々他大勢の手を煩わせました。夏季休業中の一週間を公民館に泊込みでの発掘計画は職員会で物議を醸しました。最終的に山田久校長の裁量で許可。最終日に縄文中期の竪穴住居を掘当てた時の生徒の大歓声は達成感と共に、暫くの間耳にこびり付いていました。部誌「以尔しゑ」7号迄を手に異動となりました。

・山岳部の山行（48年以降）

戸枝・川村両先生と八ヶ岳や白馬連峰を縦走、槍ヶ岳登頂。二木先生の引率で仙丈・甲斐駒へ山行。最後に残った

食糧を大鍋に炊き込んだの山岳鍋は格別美味だった。部員の顔が脳裏に浮かびます。

・卓球部の生徒たち（47年以降）

53年宿敵飯田女子校を破り、南信大会を制した思い出も忘れ難い。合宿時、部員の規律ある生活ぶりや、引退した三年生が4時超で頭から毛布を被って受験勉強をしながら食事の用意をしてくれた姿も二葉生ならではの光景。

またの再会を期して！

総じて個性豊かで、研ぎ澄まされた感性を持っていた二葉生。時に高橋和巳を論じ、時には板書の誤字を指摘され、ファイヤーストームの輪の中で泥まみれのジェンカを踊り、「靴下をはきなさい」と下足箱に靴下を差し入れてくれたあの頃―輝いていた二葉生に教えられることの多かった「続・青春」の時代に、唯々感謝あるのみ。あれから半世紀を迎えようとしています。古希を過ぎた現在も尚「燃え滾る青春の炎」を胸中に宿しながら、現実には陽だまりに温もりを求めて老々の生活に入った老爺からのメッセージとします。

東京支部 役員会だより

これを書いているのは7月ですが、しぶとい新型コロナウイルスウィルス禍により写真のおり当役員会も社会的間隔を空けての開催となっています。

おそらくこの場にいる全員が突然の連絡により（かなりひるみつつも）役員を引き受けられたはずなのですが、こうして机を囲んでいると、さわやかにものみなさめる。空間に心がワープして、かつての生徒会的雰囲気のみながってきます。

もっとくだけでもいいかも、と逆に心配なくらい真面目な役員会だからこそ、70年間にわたる東京支部の活動があるのでしょう。

今年度、心は密に、楽しく活動を続けてまいりたいと思います。



支部だより校正風景

■支部長

渋谷和海（小林）28 回生

①諏訪市・上諏訪中
 ②くみひもとマスク作り(娘・娘婿・孫用約 30 枚)。
 ③役員をやってよかったと思えるような役員会にできたら良いと思います。

■副支部長

齊藤玲子（宮坂）28 回生

①下諏訪町・下諏訪中
 ②プランター野菜栽培、ユーチューブ視聴、読書。
 ③風通しの良い会にできたらと思っています。

内田真理子（増澤）29 回生

①下諏訪・下諏訪中
 ②良いこと：手洗いマスク等衛生習慣の向上、料理の腕が多少上がったこと。悪いこと：窮屈な世界になったこと、深酒。
 ③故郷を共にしているという連帯感でファミリー的なぬくもりを維持したい。

和田靖子（二村）29 回生

①下諏訪町・下諏訪中
 ②在宅勤務でコロナ太りに悩む娘たちにダイエット食を研究。
 ③楽しくてやめられない役員活動になったらよいかと。

■南信同総連・東京同総連理事

若林さき子 19 回生

①岡谷市・岡谷北部中
 ②三冊の料理本取り寄せ毎日楽しく作っていました。
 ③今のままで良いと思います。

■会 計

藤森ゆり子（塩原）33 回生

①岡谷市・岡谷西部中
 ②コロナに負けない体力と免疫力をつけるためにジョギングと動画でうちヨガに励んでいます。久しぶりにパンやお菓子作りで気分転換もしています。
 ③出会いに感謝、役員を務めることができる環境に感謝です。

益野輝子（小澤）33 回生

①岡谷市・岡谷北部中
 ②オンライン上での擬似旅行や飲み会などの楽しみを初体験。
 ③伝統ある母校の繋がりを、広めたいと思います。

■記 録

後藤ひろみ（熊崎）31 回生

①下諏訪・下諏訪中
 ②残念なことにコロナに関係なく通常どおり仕事をしていました。
 ③楽しく活動できたらいいなと思います。

松木きよみ（山田）31 回生

①岡谷市・岡谷東部中
 ②たまっていた新聞ビデオの整理。
 ③次の世代につなげていくお手伝いできればと思います。

宮坂さち子（宮坂）38 回生

①諏訪市・諏訪西中
 ②座れる通勤電車と在宅ワーク。灯りの消えた街。家族で過ごす時間が増えました。
 ③少しでもお役に立てるようがんばります。



■会計監査

栗林理恵（伊藤）31 回生

①諏訪市・上諏訪中
 ②自宅で色々な鳥の声が聞こえることに気づきました。
 ③次に続く同窓生の交流のためにできることをしたいと思います。

松村佳代（太田）31 回生

①諏訪市・上諏訪中
 ②化粧せず会議に出る時代が来ようとは！
 ③変わりゆく時代になんとかお役にたてるようにと思います。

■事務局

瀧田由織（齋藤）27 回生

①諏訪市・上諏訪中
 ②パンデミックという言葉は SF 小説の中の事と思っていた。在宅勤務しながらも自宅周辺の里山をたくさん散歩して過ごしました。
 ③事務局 6 年目、とうとう支部長が後輩に。これからの同窓会の在り方について若い世代の新しい考えが反映され、同窓会が維持できるようお手伝いしたいと思います。

■令和2年度 東京支部代表幹事名簿 2020.7.1 現在

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
12	秋田 中子	22	土屋 郁子	31	松木きよみ	40	藤井みさき
13	大長美智子	23	宇田川美和子	32	川尻 敬子	41	津田 恵美
14	永田 福子	24	志賀 貴江	33	小野 節美	42	尾崎 恵美
15	松尾 郁恵	25	福島由美子	34	池上 敦子	43	後藤みどり
16	帆足 絹子	26	岡田 淳子	35	高杉 多実	44	中村あゆみ
17	二階堂なつみ	27	鈴木 泉	36	峯島 美緒		
18	中坪 清子	28	辺麦 三子	37	杉原 佳容		
19	永井 文代	29	内田真理子	38	宮坂さち子		
21	内田志づ子	30	谷口 文	39	大庭 節子		

令和3年度 定期総会 のお知らせ

※詳細は令和3年3月
末にご案内します。

- 日付** 令和3年5月15日(土)
午前10時～午後3時
- 場所** アルカディア市ヶ谷(私学会館)
市ヶ谷駅 徒歩2分
- 内容**
- ①総会 令和2年度活動・決算報告
令和3年度活動・予算審議
 - ②講演 鵜飼 幸雄氏
「縄文王国諏訪」
 - ③茶話会



鵜飼 幸雄氏
(うかい ゆきお)

茅野市尖石縄文考古館 前館長

1954年茅野市生まれ。立正大学文学部
史学科考古学専攻卒業。1976年茅野市
役所入庁、2014年3月定年退職。教育
委員会で文化財保護と博物館行政を担
当。縄文ビーナスの発掘と国宝指定、市
史編纂、尖石遺跡の整備、考古館の運営
などに携わる。日本考古学協会会員、長
野県考古学会会員、茅野市文化財審議委
員会委員。著書『国宝土偶「縄文ビーナ
ス」の誕生・棚畑遺跡』(新泉社、2010
年)など。奥様とお嬢様二人は、諏訪二葉
高校の同窓生。

令和2年度 幹事会 のお知らせ

※幹事の皆様には後日
ご案内します。

- 日付** 令和2年11月23日(月・祝)
午前9時～12時
- 場所** アルカディア市ヶ谷
- 内容** 令和2年活動報告
令和3年に向けて

ご寄付
いただき
ました

高校11回生の皆さまから50,000円
心よりお礼申し上げます。
有意義に使わせていただきます。

東京支部連絡先

宛 先	電話・FAX
支部長(渋谷)	0466-65-0306
事務局(瀧田)	044-965-1345



suwafutaba.tokyo@gmail.com

住所変更、新規会員さんの加入については、メールもご利用ください。

編集 後記

■「支部だより」第25号
は、新型コロナウイルス
の緊急事態宣言後よう
やく街が落ち着きを取
り戻しつつあった6月半ばに編集が
始まりました。ご協力頂いた多くの
方々に心から感謝申し上げます。4月
に70周年を迎えた東京支部ですが、征
矢鑑先生のご寄稿文にある「古希を
過ぎた現在も尚「燃え滾る青春の炎」
を胸中に宿しながら」と結ばれた
言葉がそのまま支部の70年を物語る
ような気がいたします。この間多くの
方々に支えられて、このぬくもりに満
ちた組織が存在するのを感じしま
す。お手元に届く頃にはコロナ騒動が
収束していることを願いつつ皆様の
ご自愛をお祈り申し上げます。(内田)

ふるさと 諏訪市からのご案内

諏訪市のご実家(空き家)のお手入れワンチャンス!!

- 令和3年4月から諏訪市の家庭系燃やすゴミが有料に
- 空き家バンク家財処分補助金を新設しました

諏訪市に空き家をお持ちの方で、売買や賃貸を検討している方必見!
諏訪市空き家バンクへの空き家の登録をいただけるその所有者に対して、
家財処分に係る経費の一部を補助します(1/2以内、上限5万円)。

※家電4品目は除く。

ぜひこの機会にお家の家財を処分しませんか?

要件がありますので、詳細は下記連絡先までお問い合わせください。

◇担当:企画部地域戦略・男女共同参画課(内線283)

綺麗になったご実家(空き家)を空き家バンクに登録して有効活用を!

空き家バンク情報はこちら

